



## I コマンド

---

この章では、I で始まる Cisco NX-OS イーサネット コマンドおよび仮想イーサネット コマンドについて説明します。

# install certificate

vCenter Server への接続に使用する証明書をインストールするには、**install certificate** コマンドを使用します。証明書を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**install certificate {bootflash:[//server/] | default}**

**no install certificate**

## 構文の説明

|                              |  |
|------------------------------|--|
| <b>bootflash:[//server/]</b> | 証明書をインストールするブート フラッシュ メモリの送信元 URL または宛先 URL を指定します。 <i>server</i> 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。 |
| <b>default</b>               | デフォルト パスを指定します。  |

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

SVS 接続コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 5.1(3)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、ブート フラッシュ メモリに証明書をインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# svcs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# install certificate bootflash:///
switch(config-svs-conn)#
```

次に、証明書を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# svcs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# no install certificate
switch(config-svs-conn)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                         | 説明                |
|------------------------------|-------------------|
| <b>show svcs connections</b> | SVS 接続の情報を表示します。  |
| <b>svcs connection</b>       | SVS 接続をイネーブルにします。 |

# install feature-set virtualization

スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャ セットをインストールするには、**install feature-set virtualization** コマンドを使用します。シスコ仮想マシンのフィーチャ セットを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**install feature-set virtualization**

**no install feature-set virtualization**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

ディセーブル

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 5.1(3)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン



(注)

シスコ仮想マシン機能は、Cisco Nexus 5500 シリーズ スイッチでだけサポートされます。

このコマンドには、Enhanced Layer 2 ライセンスが必要です。

## 例

次に、スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャ セットをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# install feature-set virtualization
switch(config)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                              | 説明   |
|-----------------------------------|--|
| <b>feature vmfex</b>              | スイッチ上で Cisco 仮想マシン ファブリック エクステンダ (VM-FEX) をイネーブルまたはディセーブルにします。 |
| <b>feature-set virtualization</b> | スイッチ上でシスコ仮想マシンのフィーチャ セットをイネーブルにします。                            |
| <b>show feature-set</b>           | 仮想化フィーチャ セットのステータスを表示します。                                      |
| <b>show running-config</b>        | 実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。                                    |

# instance vlan

VLAN または VLAN セットを Multiple Spanning Tree Instance (MSTI) にマッピングするには、**instance vlan** コマンドを使用します。インスタンスを削除して、VLAN をデフォルト インスタンス (Common and Internal Spanning Tree (CIST)) に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**instance** *instance-id* **vlan** *vlan-id*

**no instance** *instance-id* [**vlan** *vlan-id*]

## 構文の説明

|                            |  |
|----------------------------|--|
| <i>instance-id</i>         | 指定された VLAN がマップされるインスタンス。有効な範囲は 0 ~ 4094 です。               |
| <b>vlan</b> <i>vlan-id</i> | 指定の MSTI にマッピングする VLAN の番号を指定します。VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。 |

## コマンド デフォルト

VLAN は MSTI にマッピングされません (すべての VLAN は CIST インスタンスにマッピングされます)。

## コマンド モード

MST コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

VLAN 識別番号は、単一の値または範囲として入力します。

マッピングは、絶対的ではなく差分的に行われます。VLAN の範囲を入力すると、その範囲が既存のインスタンスに追加されるか、既存のインスタンスから削除されます。

マッピングされていない VLAN は、CIST インスタンスにマッピングされます。



### 注意

VLAN/MSTI マッピングを変更すると、MST は再起動されます。

## 例

次に、VLAN 範囲を MSTI 4 にマッピングする例を示します。

```
switch(config)# spanning-tree mst configuration
switch(config-mst)# instance 4 vlan 100-200
```

## 関連コマンド

| コマンド  | 説明                         |
|---|----------------------------|
| <b>show spanning-tree mst configuration</b> | MST プロトコルに関する情報を表示します。     |
| <b>spanning-tree mst configuration</b>      | MST コンフィギュレーション モードを開始します。 |

# interface ethernet

イーサネット IEEE 802.3 インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface ethernet** コマンドを使用します。

**interface ethernet** [*chassis\_ID*]/ *slot/port*

## 構文の説明

|                   |  |
|-------------------|--|
| <i>chassis_ID</i> | (任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。<br><br>(注) Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ のホスト インターフェイスをアドレッシングする場合は、この引数は任意ではありません。   |
| <i>slot</i>       | 1 ~ 3 のスロット。次のリストに使用可能なスロットを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>スロット 1 にはすべての固定ポートが含まれます。ファブリック エクステンダにのみ、1 つのスロットが含まれます。</li> <li>スロット 2 には上位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。</li> <li>スロット 3 には下位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。</li> </ul> |
| <i>port</i>       | 特定のスロット内のポート番号を指定します。指定できるポート番号は 1 ~ 128 です。   |

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容                               |
|--------------|------------------------------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。                    |
| 4.0(1a)N2(1) | このコマンドは、シャーシ ID 引数を提供するように変更されました。 |
| 5.0(3)N1(1)  | レイヤ 3 インターフェイスのサポートが追加されました。       |

## 例

次に、イーサネット インターフェイス 1/4 でコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/4
switch(config-if)#
```

次に、ファブリック エクステンダのホスト インターフェイスでコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 101/1/1
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                           | 説明  |
|--------------------------------|---|
| <b>interface vethernet</b>     | 仮想イーサネット インターフェイスを設定します。                        |
| <b>show fex</b>                | スイッチに接続されている、すべての設定済みのファブリック エクステンダ シャーシを表示します。 |
| <b>show interface ethernet</b> | イーサネット IEEE 802.3 インターフェイスの各種パラメータを表示します。       |
| <b>speed</b>                   | インターフェイスの速度を設定します。                              |
| <b>vtp (インターフェイス)</b>          | インターフェイスの VLAN トランキンク プロトコル (VTP) をイネーブルにします。   |

# interface ethernet (レイヤ 3)

レイヤ 3 イーサネット IEEE 802.3 ルーテッド インターフェイスを設定するには、**interface ethernet** コマンドを使用します。

**interface ethernet** [*chassis\_ID*/] *slot/port*[.*subintf-port-no*]

## 構文の説明

|                        |  |
|------------------------|--|
| <i>chassis_ID</i>      | (任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。<br><br>(注) Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダのホスト インターフェイスをアドレッシングする場合は、この引数は任意ではありません。  |
| <i>slot</i>            | 1 ~ 3 のスロット。次のリストに使用可能なスロットを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>スロット 1 にはすべての固定ポートが含まれます。ファブリック エクステンダにのみ、1 つのスロットが含まれます。</li> <li>スロット 2 には上位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。</li> <li>スロット 3 には下位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。</li> </ul> |
| <i>port</i>            | 特定のスロット内のポート番号を指定します。指定できるポート番号は 1 ~ 128 です。   |
| .                      | (任意) サブインターフェイスの区切り文字を指定します。   |
| <i>subintf-port-no</i> | (任意) サブインターフェイスのポート番号。有効な範囲は 1 ~ 48 です。  |

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード  
インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 5.0(3)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

インターフェイスをレイヤ 3 ルーテッド インターフェイスとして設定するためには、**no switchport** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用する必要があります。インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定すると、そのインターフェイスのすべてのレイヤ 2 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

レイヤ 3 インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換するには、**switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスとして設定すると、このインターフェイスのすべてのレイヤ 3 固有のコンフィギュレーションが削除されます。



## 例

次に、レイヤ 3 イーサネット インターフェイス 1/5 のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

次に、ファブリック エクステンダのホスト インターフェイスでコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 101/1/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

次に、グローバル コンフィギュレーション モードでイーサネット インターフェイス 1/5 のレイヤ 3 サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5.2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-subif)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-subif)#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードでレイヤ 3 サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# interface ethernet 1/5.1
switch(config-subif)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-subif)#
```

次に、レイヤ 3 インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                           | 説明  |
|--------------------------------|---|
| <b>bandwidth</b>               | インターフェイスの帯域幅パラメータを設定します。                        |
| <b>delay</b>                   | インターフェイス スループット遅延値を設定します。                       |
| <b>encapsulation</b>           | インターフェイスのカプセル化タイプを設定します。                        |
| <b>ip address</b>              | インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。           |
| <b>inherit</b>                 | インターフェイスにポート プロファイルを割り当てます。                     |
| <b>interface vethernet</b>     | 仮想イーサネット インターフェイスを設定します。                        |
| <b>no switchport</b>           | インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定します。                |
| <b>service-policy</b>          | インターフェイスのサービス ポリシーを設定します。                       |
| <b>show fex</b>                | スイッチに接続されている、すべての設定済みのファブリック エクステンダ シャーシを表示します。 |
| <b>show interface ethernet</b> | イーサネット IEEE 802.3 インターフェイスの各種パラメータを表示します。       |



# interface loopback

ループバック インターフェイスを作成して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface loopback** コマンドを使用します。ループバック インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**interface loopback** *number*

**no interface loopback** *number*

## 構文の説明

|               |                               |
|---------------|-------------------------------|
| <i>number</i> | インターフェイス番号。有効な値は 0 ~ 1023 です。 |
|---------------|-------------------------------|

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 5.0(3)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

**interface loopback** コマンドは、ループバック インターフェイスを作成または変更するために使用します。

ループバック インターフェイス コンフィギュレーション モードからは、次のパラメータを使用できません。

- **description** : インターフェイスの目的を説明します。
- **ip** : インターフェイスの IP アドレス、アドレス解決プロトコル (ARP) 属性、ロード バランシング、ユニキャスト リバース パス転送 (RPF)、IP ソース ガードなどの IP 機能を設定します。
- **logging** : イベントのロギングを設定します。
- **shutdown** : インターフェイスでトラフィックをシャットダウンします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ループバック インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface loopback 50
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                           | 説明                                       |
|--------------------------------|--|
| <b>show interface loopback</b> | 指定されたループバック インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。 |

# interface mgmt

管理インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface mgmt** コマンドを使用します。

**interface mgmt** *mgmt-intf-num*

## 構文の説明

*mgmt-intf-num* 管理インターフェイス番号。インターフェイス番号は 0 です。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、管理インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface mgmt 0
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                            | 説明   |
|---------------------------------|--|
| <b>show interface mgmt</b>      | 管理インターフェイスに関する情報を表示します。                                |
| <b>cdp enable</b>               | インターフェイスの Cisco Discovery Protocol (CDP) をイネーブルにします。   |
| <b>description</b> (インターフェイス)   | インターフェイスのコンフィギュレーションに説明を追加します。                         |
| <b>duplex</b>                   | インターフェイスのデュプレックス モードを設定します。                            |
| <b>lldp</b> (インターフェイス)          | インターフェイス上でリンク層検出プロトコル (LLDP) パケットの受信または送信をイネーブルにします。   |
| <b>rate-limit cpu direction</b> | インターフェイスの Packet Per Second (PPS) のレート制限を設定します。        |
| <b>snmp trap link-status</b>    | インターフェイスでの簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のリンクトラップ生成をイネーブルにします。 |
| <b>speed</b>                    | インターフェイスの送信速度と受信速度を設定します。                              |
| <b>vrf member</b>               | 仮想ルーティングおよび転送 (VRF) のインスタンスにインターフェイスを追加します。            |

# interface port-channel

EtherChannel インターフェイスを作成して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface port-channel** コマンドを使用します。EtherChannel インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface port-channel channel-number[.subintf-channel-no]
```

```
no interface port-channel channel-number[.subintf-channel-no]
```

## 構文の説明

|                           |   |
|---------------------------|---|
| <i>channel-number</i>     | この EtherChannel 論理インターフェイスに割り当てられているチャンネル番号。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。                     |
| .                         | (任意) サブインターフェイスの区切り文字を指定します。<br>(注) レイヤ 3 インターフェイスが対象となります。                           |
| <i>subintf-channel-no</i> | (任意) EtherChannel サブインターフェイスのポート番号。有効な範囲は 1 ~ 4093 です。<br>(注) レイヤ 3 インターフェイスが対象となります。 |

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード  
インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容                                      |
|--------------|---|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。                           |
| 5.0(3)N1(1)  | レイヤ 3 インターフェイスおよびサブインターフェイスのサポートが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

ポートは、1 つのチャンネル グループだけに属することができます。

レイヤ 2 インターフェイスに **interface port-channel** コマンドを使用する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- CDP を使用する場合は、EtherChannel インターフェイス上ではなく物理インターフェイス上だけで CDP を設定します。
- EtherChannel インターフェイス上にスタティック MAC アドレスを割り当てない場合は、MAC アドレスが自動的に割り当てられます。スタティック MAC アドレスを割り当て、後で削除した場合は、MAC アドレスが自動的に割り当てられます。
- EtherChannel の MAC アドレスは、チャンネル グループに追加される最初の動作ポートのアドレスです。この最初に追加されたポートがチャンネルから削除されると、次に追加された動作ポート（存在する場合）の MAC アドレスになります。

EtherChannel インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **no switchport** コマンドを使用する必要があります。インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定すると、そのインターフェイスのすべてのレイヤ 2 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

レイヤ 3 EtherChannel インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換するには、**switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスとして設定すると、このインターフェイスのすべてのレイヤ 3 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

ルーテッドインターフェイスで構成されるポート チャンネルに 1 つまたは複数のサブインターフェイスを設定できます。

## 例

次に、チャンネル グループ番号 50 を持つ EtherChannel グループ インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 50
switch(config-if)#
```

次に、チャンネル グループ番号 10 のレイヤ 3 EtherChannel グループ インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 10
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/24
switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードでチャンネル グループ番号 1 のレイヤ 3 EtherChannel サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 10
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# interface port-channel 10.1
switch(config-subif)# ip address 192.0.2.2/24
switch(config-subif)#
```

次に、グローバル コンフィギュレーション モードでチャンネル グループ番号 20.1 のレイヤ 3 EtherChannel サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 20.1
switch(config-subif)# ip address 192.0.2.3/24
switch(config-subif)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                  | 説明   |
|-----------------------|--|
| <b>encapsulation</b>  | (レイヤ 3 インターフェイス) インターフェイスのカプセル化タイプを設定します。                      |
| <b>ip address</b>     | (レイヤ 3 インターフェイス) インターフェイスのプライマリ IP アドレスまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。 |
| <b>no switchport</b>  | (レイヤ 3 インターフェイス) レイヤ 3 インターフェイスとしてインターフェイスを設定します。              |
| <b>show interface</b> | インターフェイスに関する設定情報を表示します。  |
| <b>show lacp</b>      | LACP 情報を表示します。   |

| コマンド                             | 説明   |
|----------------------------------|--|
| <b>show port-channel summary</b> | EtherChannel に関する情報を表示します。                     |
| <b>vtp</b> (インターフェイス)            | インターフェイスの VLAN トランッキング プロトコル (VTP) をイネーブルにします。 |

# interface vethernet

仮想イーサネット (vEth) インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface vethernet** コマンドを使用します。仮想イーサネット インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vethernet veth-id [, vethernet veth-id, ...]
```

```
no interface vethernet veth-id [, vethernet veth-id, ...]
```

## 構文の説明

|                |  |
|----------------|--|
| <i>veth-id</i> | 仮想イーサネット インターフェイス番号。有効な範囲は 1 ~ 1,048,575 です。<br><br>複数の仮想イーサネット インターフェイスを指定できます。必ずカンマ (,) 区切り文字を使用します。 |
|----------------|--|

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース        | 変更内容            |
|-------------|-----------------|
| 5.1(3)N1(1) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

仮想イーサネット インターフェイスを使用する前に、**feature vmfex** コマンドを使用して、スイッチ上で Cisco 仮想マシン ファブリック エクステンダ (VM-FEX) をイネーブルにする必要があります。

各スイッチの仮想イーサネット インターフェイスを設定する必要があります。セカンダリ スイッチのコンフィギュレーションは、プライマリ スイッチのコンフィギュレーションと同じにする必要があります。

Cisco Nexus 5548 スイッチでは、最大で 1000 個の仮想イーサネット インターフェイスを作成できます。スイッチ上で **Adapter-FEX** をディセーブルにする前に、必ずこれらのインターフェイスを削除します。仮想イーサネット インターフェイスを削除した後、スイッチの実行コンフィギュレーションを必ずスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。

## 例

次に、仮想イーサネット インターフェイス 10 のコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 10
switch(config-if)#
```

次に、複数の仮想イーサネット インターフェイスのコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface vethernet 10, vethernet 2
```



```
switch(config-if-range) #
```

次に示す例では、インターフェイスをバインドして、vEthernet アクセス インターフェイスを設定し、このインターフェイスにアクセス VLAN を割り当て、次に仮想イーサネット インターフェイスに ppVEth というポート プロファイルとサービス クラス (CoS) 値 3 を割り当てます。

```
switch# configure terminal
switch(config) # port-profile type vethernet ppVEth
switch(config-port-prof) # switchport mode access
switch(config-port-prof) # service-policy type qos input my_policy1
switch(config-port-prof) # exit
switch(config) # interface vethernet 10
switch(config-if) # bind interface ethernet 1/5 channel 10
switch(config-if) # inherit port-profile ppVEth
switch(config-if) # untagged cos 3
switch(config-if) #
```

次に、仮想イーサネット インターフェイスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config) # no interface vethernet 2
switch(config) #
```

## 関連コマンド

| コマンド                                 | 説明   |
|--------------------------------------|--|
| <b>bind</b>                          | 仮想イーサネット インターフェイスにインターフェイスをバインドします。              |
| <b>feature vmfex</b>                 | スイッチ上で VM-FEX をイネーブルにします。                        |
| <b>port-profile</b>                  | ポート プロファイルを設定します。                                |
| <b>show interface ethernet</b>       | イーサネット インターフェイスに関する情報を表示します。                     |
| <b>show interface vethernet</b>      | 仮想イーサネット インターフェイスの各種パラメータを表示します。                 |
| <b>show running-config interface</b> | インターフェイスの実行コンフィギュレーションを表示します。                    |
| <b>vethernet auto-create</b>         | 仮想イーサネット インターフェイスの自動作成をイネーブルにするデフォルト ポリシーを設定します。 |

# interface vlan

VLAN インターフェイスを作成して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface vlan** コマンドを使用します。VLAN インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**interface vlan** *vlan-id*

**no interface vlan** *vlan-id*

## 構文の説明

|                |  |
|----------------|--|
| <i>vlan-id</i> | インターフェイスがアクセス モードのときに設定する VLAN。有効な値は 1 ~ 4094 です。内部スイッチ用に予約されている VLAN は除きます。 |
|----------------|--|

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、**feature interface-vlan** コマンドを使用してインターフェイス VLAN 機能をイネーブルにします。

VLAN インターフェイスの作成または変更を行うには、**interface vlan** コマンドを使用します。

VLAN インターフェイスは、特定の VLAN に対して初めて **interface vlan** コマンドを入力したときに作成されます。*vlan-id* 引数は、IEEE 802.1Q カプセル化トランク上のデータ フレームに関連付けられた VLAN タグ、またはアクセス ポートに設定された VLAN ID に対応します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、VLAN 50 の VLAN インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface vlan 50
switch(config-if)#
```

## 関連コマンド

| コマンド                          | 説明                                      |
|-------------------------------|---|
| <b>feature interface-vlan</b> | VLAN インターフェイスを作成する機能をイネーブルにします。         |
| <b>show interface vlan</b>    | 指定された VLAN インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。 |

# ip igmp snooping (EXEC)

インターネットグループ管理プロトコル (IGMP) をイネーブルにするには、**ip igmp snooping** コマンドを使用します。IGMP スヌーピングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp snooping**

**no ip igmp snooping**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

IGMP スヌーピングはイネーブルです。



(注)

グローバルな設定がディセーブルになっている場合は、すべての VLAN が、イネーブルかどうかに関係なくディセーブルと見なされます。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容            |
|--------------|-----------------|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。 |

## 例

次に、IGMP スヌーピングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# ip igmp snooping
```

## 関連コマンド

| コマンド                         | 説明                        |
|------------------------------|---------------------------|
| <b>show ip igmp snooping</b> | IGMP スヌーピング情報および設定を表示します。 |

# ip igmp snooping (VLAN)

VLAN でインターネット グループ管理プロトコル (IGMP) を設定するには、**ip igmp snooping** コマンドを使用します。コマンドを無効にするか、デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip igmp snooping parameter**

**no ip igmp snooping parameter**

## 構文の説明

*parameter* 設定するパラメータ。詳細情報については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

## コマンド デフォルト

デフォルト設定は、次のとおりです。

- **explicit-tracking** : イネーブル
- **fast-leave** : すべての VLAN についてディセーブル
- **last-member-query-interval seconds** : 1
- **querier IP-address** : ディセーブル
- **report-suppression** : イネーブル

## コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

| リリース         | 変更内容  |
|--------------|---|
| 4.0(0)N1(1a) | このコマンドが追加されました。   |
| 5.1(3)N1(1)  | Cisco Adapter ファブリック エクステンダ (Adapter-FEX) でこのコマンドのサポートが追加されました。 |

## 使用上のガイドライン

表 1 に、*parameter* の有効値を示します。

表 1 IGMP スヌーピング パラメータ

| キーワードおよび引数                                | 説明   |
|---|--|
| <b>explicit-tracking</b>                  | VLAN ベースで各ポートの IGMPv3 メンバーシップ レポートのトラッキングをイネーブルにします。デフォルトは、すべての VLAN でイネーブルです。 |
| <b>fast-leave</b>                         | IGMPv3 スヌーピングの高速脱退処理をイネーブルにします。デフォルトは、すべての VLAN でディセーブルです。                     |
| <b>last-member-query-interval seconds</b> | すべてのホストが IGMP クエリー メッセージに応答しない場合は、グループを削除します。有効値は 1 ~ 25 秒です。デフォルトは 1 秒です。     |

表 1 IGMP スヌーピング パラメータ (続き)

| キーワードおよび引数  | 説明  |
|---|---|
| <b>mrouter interface</b> <i>interface</i>   | マルチキャスト ルータへのスタティックな接続を設定します。指定のインターフェイスは、イーサネットまたは EtherChannel です。  |
| <b>querier</b> <i>IP-address</i>  | スヌーピング クェリアを設定します。IP アドレスは、メッセージの送信元として使用します。デフォルトではディセーブルです。   |
| <b>report-suppression</b>   | マルチキャスト対応ルータに送信されるメンバーシップ レポートトラフィックを制限します。レポート抑制をディセーブルにすると、すべての IGMP レポートがそのままマルチキャスト対応ルータに送信されます。デフォルトではイネーブルです。 |
| <b>static-group</b> <i>group-ip-addr</i><br>[ <i>source source-ip-addr</i> ]<br><b>interface</b> <i>interface</i> | VLAN に属するインターフェイスを、マルチキャスト グループのスタティック メンバとして設定します。指定のインターフェイスは、イーサネットまたは EtherChannel、または仮想イーサネットです。               |

例

次に、VLAN 5 の IGMP スヌーピング パラメータを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# ip igmp snooping last-member-query-interval 3
switch(config-vlan)# ip igmp snooping querier 192.168.2.106
switch(config-vlan)# ip igmp snooping explicit-tracking
switch(config-vlan)# ip igmp snooping fast-leave
switch(config-vlan)# ip igmp snooping report-suppression
switch(config-vlan)# ip igmp snooping mrouter interface ethernet 1/10
switch(config-vlan)# ip igmp snooping static-group 192.0.2.1 interface ethernet 1/10
switch(config-vlan)# ip igmp snooping static-group 192.0.2.12 interface vethernet 4/1
switch(config-vlan)#
```

関連コマンド

| コマンド                         | 説明                        |
|------------------------------|---------------------------|
| <b>show ip igmp snooping</b> | IGMP スヌーピング情報および設定を表示します。 |

## ■ ip igmp snooping (VLAN)